

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)**(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。**

理学研究科・理学部は全学教育における数学教育および理科教育の責任部局として貢献している。平成17年度には数学基礎の科目別及び年度別による学力調査を実施し、学務審議会で報告した。理科実験については理学研究科の教員が中心となって新たな企画・立案を行い、平成16年度に「自然科学総合実験」として開花した。この取り組みの一環である「融合型理科実験が育む自然理解と論理的思考」が文科省特色GPとして採用された。さらに、この全学教育としての業績に対し東北大学総長教育賞が授与されている。

平成14年度には化学専攻の提案した21世紀COEプログラム「大分子複雑系未踏化学」が採択され、平成15年度からは、物理学専攻、天文学専攻、数学専攻の「物質階層融合科学の構築」、地学専攻、地球物理学専攻の「先端地球科学による地球未来像創出」が採択され、結果として理学研究科の全専攻が所属して3つの21世紀プログラムが実施されている。これらのプロジェクトによって、海外からの客員教員の招聘、大学院生の国際会議派遣、RAによる研究の推進などが積極的に推進されている。

さらに、平成17年度には、知の継承と創出を担う「国際的若手研究者養成プログラム (ヤングブレインズ21)」が大学院GPとして採択された。これによって、大学院前期課程院生の国際会議派遣の促進、独自のシンポジウム開催等を通じて、理学研究の将来を築く有為な人材を育成している。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け (ISI citation など) など。

平成18年度ISI Web of Knowledge (Essential Science Indicators) によれば、物理学分野では東北大学は世界11位、国内2位にランキングされ、東北大学の上位20位の論文のうち14件は理学研究科からの論文である。化学分野では世界20位、国内5位にランキングされ、同じく上位20位の論文のうち10件は理学研究科からのものである。また、地球科学分野では世界135位、国内4位にランキングされている。東北大学内部での過去2年間の最多引用論文においても、理学研究科からの論文が上位を占め、東北大学の研究水準の高さを国際的に示す上で多大な貢献をしている。特にニュートリノ関連の研究成果は、著名な雑誌に掲載され世界的に注目されている。

理学研究科全体では、過去7年間にわたり、毎年、230件程度の国内外の学会役員、110件程度の政府省庁審議員等、100件程度の国内外の論文誌編集委員、50件程度の国際組織の役員を担っており、内外から信頼される基礎科学の中心として広く社会に貢献している。

理学研究科・国際交流推進室による「先端理学国際コース」の開設による外国人大学院生受入の取り組みは独自のものである。キャンパスライフ支援室による就学相談など、独自の学生支援体制を整えている。理学研究科・広報室による「サイエンスカフェ」の立ち上げ時からの積極的な支援も高く評価されるべきである。中国・清華大、フランス・ECとのダブルディグリー制度の創設に当たっても、理学研究科・国際交流推進室の貢献は多大である。